

## 小国地域委員会での協議希望項目アンケート結果

1 住民サービスや基盤整備などの推進、市民力、地域力の向上など、これまで以上に住民と行政が一体となってまちづくりに取り組んでいくことが必要となります。全市的な視点で、小国地域委員会で議論すべき課題はどのようなものが考えられますか？

- ・ 生活基盤の整備・・・ガスプラントの導入
- ・ 産業基盤の拡充・・・空工場の有効活用
- ・ 合併地域との連携・・・合併条件の実現
- ・ 各種組織との意見交換による問題点の集約
- ・ もちひと祭りを盛り上げ地域を活性化する方法
- ・ 合併地域の支所権限と支所長権限枠で、1千万くらいを本庁に答申をお願いしたい。
- ・ 10の合併地域委員会と話し合いの上、市長に陳情する。
- ・ 地域の歴史・文化・祭り、緊急災害等を守る為には、支所長権限が必要と思う。
- ・ 1つとして前年度にもありましたが、福祉と医療についても継続して取り組む問題点だと思えます。
- ・ 2つ目は、小国の夏祭りの花火や、もちひと祭りを盆の行事として（一緒に）出来ないか？もっと小国全体で盛り上げる様なことをやったらどうか？
- ・ コミュニティセンターの進め方
- ・ 小学校の統廃合について（各学校との意見交換）
- ・ これからの高齢者の生活を、どのように支援していったらよいか。
  - 冬 雪の対策
  - 生きがいをもつ事（人との交流）
  - 買い物 等
  - 元気に長生きをしてほしい
- ・ 全市的な視点というよりも小国の現状・実状に即した課題をとり上げた方がよいかと。少子高齢化の問題と対策。老人世帯（一人暮らし）の増加、その見守り、ケアなど現在主として民生委員の方が対応されていたり、その集落の見守りパトロール？の方などがいるのでしょうか？なかなか民生委員の成り手もないことなどお聞きしています。「これからの福祉と医療について」の継続審議をお願いしたいと思えます。
- ・ 自然を生かした地域づくり
- ・ 若者が住みやすい地域づくり
- ・ 地域委員会の開催回数が少なくなり、より表面的な事にしか取り組めないように思います。たとえば、農村と柏崎農協とNPO法人の関係がすっきりしていないのではないのでしょうか。

- ・ まちづくりの取組では、地域の特産物（特徴）の研究、開発  
ここに言う特産物とは単に農産品、加工品という狭い範囲ではなく産業、文化、スポーツ、環境、コミュニティ等すべてのことを含めた中から、ひとつだけ見つけて、一番目、又は他にないものを作り出すことを目指して考えることが必要と思う、多くの中からひとつ上げるとすれば、利雪の問題を考えることが出来ればよいと思います。
- ・ 高齢者世帯への生活支援の問題（特に冬期間）
- ・ 初めての地域委員として、今まで課題とされてきたことについてまず理解を深めたい。

## 2 推薦団体における課題や小国地域特有などより身近なところで、最近感じていることについて、地域委員会で議論すべき課題はどのようなものが考えられますか？

- ・ 支所で独自性を出したくても財源がないため独自性が出せない。支所で決定できる施策費として3000万円程度を配分すべきだと考える。
- ・ 年々企画案内するスポーツイベントや教室への参加が減り、中止になる場合もある。どのようにしたら良いか。
- ・ 特になし
- ・ 森林公園をもっと活用して、自然を多くの人に感じてほしい（もったいない）
- ・ 商工会々員の減少、女性部も現状では（年寄りがいり、自分が商売の担い手）であったりして活動できる人が減ってきている。
- ・ 東日本大震災の影響もあったりして商工業、建設業などほぼすべての業種において衰退している現状を感じます。
- ・ 高齢化が進む中で小国の伝統行事や伝統芸能を集落ごとではなく小国町全体で保存して行くには。
- ・ 小国地域の基幹産業である農業の振興と集落活性化の促進。農業環境は益々厳しくなっています。平場地域は現在11組織の農事法人があり、ある程度までは地域農業は守られる状況にありますが、山間地域の農地をどう守って行くかは大きな課題です。特に、上小国地域をはじめ数集落については担い手がないに等しい状況です。集落の農地が守られなければ集落そのものが崩壊の危機になります。これは当該集落だけでは解決できません。小国地域あげての取組が必要です。
- ・ 合併協議における「町内会報償金」の件について、小国地域において、現状維持を確保する方策について。
- ・ 7月3日に予定されている小国診療所の金子先生の講演とシンポジウムは、住民が福祉や医療について改めて考える大事な機会、ここまでこぎつけたことを評価するとともに、いっそう守り発展させる取組。

- ・ 小国町の豪雪地域という特殊性をふまえ「制度統一」という名目で、単純に平均化することのない豪雪対策と支援体制。

### 3 課題・問題を解決していく方法について、どのような方法が考えられますか？

#### 例. 分科会の設置、多様な団体との意見交換会の開催

- ・ 問題分析シートを活用して、事前に各自の意見を集約して分析を行なう。委員会は方向決定の場とする。
- ・ 分科会の設置
- ・ 今までのような2つの分科会を設けて、その中で色々な議論や、意見交換をした方が良いと思います。
- ・ コミュニティセンター検討委員会との会議
- ・ 各集落の代表（総代連絡協議会）との会議と合わせて各種団体との連携
- ・ 分科会は必要なし
- ・ 分科会を設置して、他の団体と一緒に、他地域を見学して、小国ならではの解決方法にしたい。
- ・ 町内の保健師や民生委員の訪問パトロール（？）の方達からまず現状実状を聞く機会を持つなど・・・意見交換を通して、より良い施策や体制作りの構築を図るなどできたら良いかと。
- ・ 特産品生産体制については2年に渡る審議や、それぞれの生産組合で進行形だと思いますが、生産組合どうしの会合などは持たれているのでしょうか？それぞれの生産組合が良い意味で情報交換、問題点など出し合い話し合い、競いあえば、共に活性化につながるのではと・・・
- ・ 他市町村との交流
- ・ 前期の地域委員、正副委員長をおまねきし地域委員会の引き継ぎ会等を行い、棒つなぎにしない地域委員会でありたい。
- ・ 小学校の統廃合について
- ・ 集落の問題点（人口の減少、高齢化等）
- ・ 地域委員会の分科会での研究検討の上、取り組む内容が決定したら関係する団体、個人等を含めた協議会のようなものをつくり、最終的には地域全体の課題として進める。
- ・ 地域委員会の専任担当者を選任して、産業課、柏崎農業協同組合とチームを編成して該当集落に出向き、まず課題、悩み等集落がかかえている問題点を把握して対応策を作り出す。
- ・ 上記例題の他、同様の問題を抱えている他地域の調査。
- ・ 視察など。